



「言葉の力」を中核とした学校づくり ⑫

「保護者との信頼関係」を深める

- ◆ 保護者との信頼関係は、教師と子供と関係性及び校長を中心とする組織体制が鍵を握ります。

- ◆ 「先生は、自分によく声をかけてくれる」、「話を聞いてくれるので、相談しやすい」、「私が頑張っていると、褒め励ましてくれる」、「授業が分かりやすく、やる気が出る」、「学級の雰囲気がよく、行事が待ち遠しい」等々こうした子供の声につながる学校づくりの主なポイントは、次のとおりです。

- 子供一人一人に寄り添う学校風土
- 子供の話を傾聴する教師集団
- 個人内評価の重視
- <子供の視点>を重視した授業改善
- 学級経営の充実

- ◆ 保護者は我が子に関わる「よい情報」を得ることで、学校に対する信頼を高めていきます。

学校全体で子供のもつよい点や可能性、進歩の状況等に係る情報を共有し、学校だよりや学年・学級通信、電話連絡などを通して、発信することが大切です。

- ◆ また、一方的な伝達に終始しがちな保護者会を、保護者が「来てよかった」、「来て得をした」、「また行きたい」と思える、双方向のコミュニケーションの場にしたいものです。

- ◆ なお、「ピンチはチャンス」の言葉どおり、事件・事故等、危機の発生時には、管理職を含む学級担任等による迅速かつ丁寧な初期対応と、その後の適時適切な情報提供が必要です。



価値ある一生

実業家 渋沢 栄一

自己の学問智識を応用し、社会のため、国のため、愉快地活発に働きて、人たるの本分を尽くすが、人として価値ある一生である。人もし余の一生を通じたる主義いかんと問わば、余は前の如く答うるものである。

出典：「渋沢栄一 一日一言 人間力を高める言葉」（致知出版社）

※ 学んだこと等を生かして、世のため人のためになることが、すなわち生きる喜びであると考えます。